

入浴アセスメント

～ケアプランに沿った入浴ケアへの取り組み～

特別養護老人ホーム にしのみや苑

岸本恭子（援助員）・鉢呂伊久子（援助員）・有川則志（援助員）・平野一郎（援助員）

はじめに

「入浴3年計画 - 質の向上 - 」と題して、一昨年から入浴の質の向上に取り組んできました。昨年度の「家庭的な温かみのある環境の迫及」に続き、今年度は、いよいよ実際の入浴ケアに着手。

入浴会議で掲げたそのテーマは、「**利用者が希望する入浴**」でした。フロアの入浴ケアの現状においては、統一されていました。しかしながら、利用者が希望する入浴にフォーカスした時、少しの疑問が残りました。

吉田は、「（アセスメントがなければ）一人ひとりの介護職が、それぞれの解釈によって介護を行うことになり、その結果、期待した結果が得られなかったり、誤った方向へ進んでしまうことが考えられる」と指摘する。

こうした経緯から、私たちはアセスメントの必要性を感じ、話し合いの末、入浴にアセスメントを取り入れようと考えました。

これよりその取り組みを報告します。

【1】「希望シート作成」 実施および結果

実施期間

2018年2月1日～2月29日

◆『入浴希望シート』（下記参照）

わたしの希望シート NEO 入浴

■ 様

「わたしのこれだけはしてほしいこと」（ニーズ）

確認事項	情報の解釈・関連づけ・支援内容	評価
■ プライバシー	入浴に対して嫌がられる事があります。同性介助の方が受け入れ易いのかも？	
■ 更衣・整容	基本的に自分で行います。こだわりがあるので見守りのみで対応して下さい。	
■ 洗身・洗髪	基本的に自分で行います。足の裏を洗われるが苦手です。	
■ 湯温・温度		
■ 入浴に関連する疾患・既往歴	高血圧、左大腿部骨折	
■ 保湿クリーム・塗り薬（どこになにを塗るか、詳しく記入）	ありません。陰部などに爛れが痒いか確認して下さい。	
■ 水分	少しトイレをつけて対応して下さい。	
■ その他		

これは、入浴委員会で発案した入浴専用のアセスメントシートです。一般的なアセスメントシートの項目を基にしながらも、入浴関連に特化させています。更衣や整容、洗身・洗髪・プライバシー・湯の温度、（入浴に関連する）既往歴、保湿クリーム、軟膏（どこになにを塗るか）」など、カテゴライズしてあります。これらの情報から課題を導きますが、課題を吉田は次のように定義しています。「（課題とは）、利用者の望む生活を実現または継続するために、解決しなければならないことを意味する」。この定義のもとに、課題を、「わたしのこれだけはしてほしいこと」という利用者目線の表現にしました。また、その欄は、上段枠に配置して、重要性を持たせました。

このフォーマットに、利用者のそれぞれの居室担当者が、パソコン上で情報を入れていきました。

◆入力後の希望シート（下記参照）

「わたしのこれだけはしてほしいこと」（ニーズ）

衣類の着方など『こだわり』を大事にして下さい。

確認事項	情報の解釈・関連づけ・支援内容	評価
■ プライバシー	入浴に対して嫌がられる事があります。同性介助の方が受け入れ易いのかも？	
■ 更衣・整容	基本的に自分で行います。こだわりがあるので見守りのみで対応して下さい。	
■ 洗身・洗髪	基本的に自分で行います。足の裏を洗われるが苦手です。	
■ 湯温・温度		
■ 入浴に関連する疾患・既往歴	高血圧、左大腿部骨折	
■ 保湿クリーム・塗り薬（どこになにを塗るか、詳しく記入）	ありません。陰部などに爛れが痒いか確認して下さい。	
■ 水分	少しトイレをつけて対応して下さい。	
■ その他		

結果

・情報入力、アンケート情報や普段の入浴の様子、フェイスシートの情報などの情報源から反映させた。更衣や洗髪などと、あらかじめカテゴリー項目をもうけていたことにより、ひとつひとつに考える時間が持て、本人のこだわりや留意事項に改めて気づかされることがあった。

・課題については、これまで「留意事項」ととらえていたことが、「本人の希望」という視点が加わり、ケアをする際の心境に変化があった。

【2】「計画の立案、加筆、フロアで周知」 実施および結果

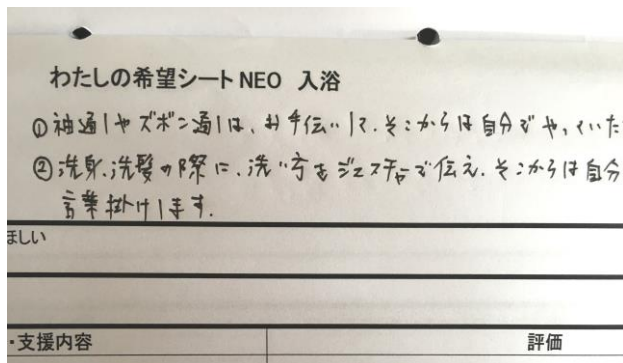
実施期間

2018年4月1日～4月25日

後藤は、「個別援助計画は、目標を達成するための支援内容・支援方法・支援の頻度について、実施の可能性を考慮して具体化していく」と述べている。これを踏まえて、各居室担当者は、課題を明確化した希望シートに、計画を記述しました。それらを一冊にファイリングし、職員間で閲覧していきました。

閲覧する過程で、希望シートには書かれていない情報で、他の職員が把握している情報があれば、その職員が直接加筆し、それらをまた情報として共有しました。

◆計画の立案後の希望シート（下記参照）



支援内容	評価

◆加筆後の希望シート（下記参照）

「わたしのこれだけはしてほしいこと」（ニーズ）

手指や口周りの唾液や食物残渣からの異臭がしないよう、念入りに洗浄してほしい

確認事項

情報の解釈・関連づけ・支援内容

- プライバシー
ちょっとさわりです。
- 更衣・整容
額元にタオルをかけ、流涎の広がりを防ぐ
- 洗身・洗髪
手指や口周りの念入りな洗浄・消毒
- 浸湯・温度
体温が右に低いため、ボーズクラン使用
夜間の良眠に近づける為、ジェットバスを使用し、適度な疲労感を得る
- 入浴に関連する疾患・既往歴
- 保湿クリーム・塗り薬（どこに何を塗るか、詳しく記入）

結果

・情報が入浴希望シートに集約され、すべての職員で「個別化」を周知できたことが収穫であり、今回の目標のひとつにしていることでもあった。

・加筆においては、これまで介護日誌にはあがらない、一部の職員だけが知っている小さな情報（例えば、「Mさんの目の前に姿見を置くと、自分でドライヤーができる」とか、「1、2の3と声を出してシャワーを出すとWさんの怖がりが少ない」）などを、希望シートで情報共有できたことは、意味が大きかった。

・この希望シートの情報を基に、軟膏やボディクリームの一覧表も作成でき、入浴後の肌ケアがスムーズになり、塗り忘れなどが少なくなった。

【3】「実施～評価～再アセスメント」

実施および結果

実施期間

2018年6月1日～7月25日

職員で閲覧した希望シートファイルを浴室に移動させ、実際にケア内容を実施していきました。それを、その日の入浴担当者が評価します。立案した計画の修正の必要性については、飯盛は次のように述べています。「目標が達成されていないという結果が得られた場合、目標を達成していない原因を明らかにすることにより、計画のどの部分を修正すればよいのか、そもそも再アセスメントする必要があるのかなどが判断できる」。これに基づき、ケア内容に問題がなければ、問題なしでチェック。問題があれば、その問題の原因を明らかにし、修正案、あるいは、実施の中止を書き加えました。

◆評価後の希望シート（下記参照）

即で、自分でドライヤーができます。浴見と目の前に置くのはok

この問題は実施できた。自分でハンカチはこうして
とてまてこも追加していい。⇒袖通し(ズボン通
洗身用湯が思い出し、洗い、マズマズ。⇒言葉
11/11

結果

・実施においては、多くが滞りなく進行した。強めの洗身の方、ぬるめのお湯の方、足し湯をしながら入る習慣の方など、希望シートに基づき、瞬時に対応を合わせていった。それらに対して、「ありがとう。すっきりしたわ」と返答されるIさんもいれば、何の訴えもなく、穏やかな表情で入浴される利用者も多かった。これらの結果は、ニーズを満たしており、問題がないとした。

・一方で、計画の修正の必要性があったケースは、自立を促す支援であった。私たち職員は洗身や着衣ができると考えていたCさんやMさんだが、日々の認知症の進行や筋力の低下により実際には困難になっていることがわかった。これは、日頃から私たち職員が、つい過剰に手伝ってしまい、「待つ」ケアが疎かになっていたという反省点でもあった。このケースについては、原因を書き、計画に修正を加えた。そのうえで、利用者のその時々の様子に合わせて自立の促しを行うこととした。同時に、立ち上がり運動やグーパー運動などのリハビリを日常のなかで実施した。

2 考察

後藤によれば、「組織が定める標準的な方法・手順に準じた「統一的」なサービス提供だけでは十分とは言えない。(略)利用者一人ひとりの生活習慣や価値観を尊重した「個別化」の視点を加えてはじめて、その人にふさわしい支援を実践することが可能になる」と述べている。

もしも後藤が言うように、「統一的」なサービスに「個別化」の視点を加えることが、私たちがテーマとする「利用者が希望するケア」であるとするなら、やはり個別化の出発点となるアセスメントは、入浴においても絶対に外せないものであるのかもしれない。

実際に、希望シートにとりかかって、率直に感じたことが、留意点や本人の嗜好の多さであり、その重要性でした。紙面化した入浴情報のひとつひとつを改めて考えると、普段なにげに介助している「そのひとつ」は、実は利用者の一番入浴したい理由であったのかもしれないと気づいたのです。例えば、あついお湯に入るといふ楽しみ、いつもの牛乳石鹸で身体をゴシゴシ洗ってサッ

パリしたいという希望、または、痒くなつたところを綺麗にしてお薬が塗りたいという希望など。利用者はそれぞれの希望をもって浴室ののれんをくぐっておられたのかもしれない、そう感じました。

この取り組みを通して私たちは、利用者が、ただ汗を流しに来られたのではなく、なにかしらの希望が必ず存在するのだと気付く必要がある。そしてフロアとして大切なことは、どの職員にあたって、しっかりとその希望が満たせることであり、これからの直近の課題であると考えます。

おわりに

「入浴3年計画 - 質の向上 -」の3年目を迎えている今、入浴アセスメントの取り組みを経て、私たち援助員は、利用者の希望する入浴に少し近づいたのかもしれない。

「入浴介助が作業になってはいけない」。その理由を、この希望シートから学びながら、今後も利用者が希望する入浴に職員一丸となって取り組んでいこうと思います。



引用文献

吉田節子①・後藤真澄②④・飯盛茂子③ 著
「介護過程」2010年 中央法規

参考文献

白澤政和 著 「施設ケアプランーいかにケアプランを作成するかー」2003年 中央法規